

令和6年度 北海道開発局事前評価技術検討会 議事概要

- 1 日 時 : 令和6年7月5日(金) 10:30~12:30
- 2 場 所 等 : 札幌第1合同庁舎 6階共用会議室
- 3 対象地区 : 国営かんがい排水事業 「漁川右岸地区」
国営かんがい排水事業 「北斗用水地区」
国営かんがい排水事業 「訓子府北栄地区」
- 4 委 員 : 北室 かず子 フリーライター・編集者
三宅 俊輔 帯広畜産大学 准教授
山本 忠男 北海道大学大学院農学研究院 准教授
義平 大樹 酪農学園大学 教授

5 議 事

北海道開発局事前評価技術検討会を開催し、令和7年度事業着手要求地区である国営かんがい排水事業「漁川右岸地区」同「北斗用水地区」及び同「訓子府北栄地区」の事前評価に当たって、評価資料(案)の内容、判断根拠等について、各委員から意見を求めた。質疑応答の概要は以下のとおり。

[1] 国営かんがい排水事業「漁川右岸地区」

- (委員) 排水施設は、鋼矢板護岸が腐食により開孔するなど劣化が生じているが、管理者はこれまでどのような維持管理をしていたのか。
- (開発局) 施設を管理する恵庭市・千歳市により、点検や補修といった維持管理が適切に行われている。なお、鋼矢板護岸の開孔は経年的な劣化により生じたものであり、劣化状況などに応じてコンクリート柵渠護岸への改修やパネル被覆工法による補修を行う計画としている。
- (委員) 野菜の生産を推進するための方策としてスマート農業の導入が挙げられたが、具体的にどのような技術が活用されるのか。
- (開発局) JAがスマート農業の研究会を設立しており、小麦の可変施肥など主に土地利用型作物を対象とした技術の導入が図られている。スマート農業の取組により土地利用型作物の作業労力が軽減されることで、野菜の作業へ労力を向けることが可能になると考えられる。

[2] 国営かんがい排水事業「北斗用水地区」

- (委員) 融雪が早まってダムへの流入量が減少しているとのことだが、ダムへの貯留を前倒しすることで、用水不足に対応できないのか。
- (開発局) 春先にダムは一度満水になっており、融雪の早期化によって、使用量に対して流入量が不足することで貯留量が低下している。このため、貯留を前倒しても根本的な解決とはならない。
- (委員) 北斗用水地区の現地を見ることで理解できたが、図面上では既存用水路と並列する形で流域変更水路を新設する意図がわかりにくいように思う。広く一般

の方々の理解を得るという観点からも、より伝わりやすいような資料、図面の工夫をお願いしたい。

(開発局) 御意見を踏まえ検討したい。

[3] 国営かんがい排水事業「訓子府北栄地区」

(委員) チェックリストの〈スマート農業技術等の導入〉において、本地域は基地局が整備されており、スマート農業の取組が継続されるのでA判定ではないか。

(開発局) 昨年まではスマート農業に係る取組が確認できた場合は評価対象としていたが、今年度からは、スマート農業の導入に対応した基盤整備の予定の有無で評価する指標とされている。このため、本地区では新たな基盤整備予定がないためB判定となる。

[4] 各地区共通事項（全体議論・まとめ）

(委員) 開発局は公共インフラを整備しているだけに止まらず、地域をつくっているという面をもっと前面に押し出して、国民にPRした方がよい。

(委員) 年月の経過で農家の経営状態も変わるが、気象も大きく変動することが想定され、それによる影響や対応などについて、今後、抜本的な検討が重要と感じた。

[5] 全体意見

事前評価の評価項目である事業の必要性、効率性、有効性、優先性、公平性及びその他評価項目は、適切に評価されている。

検討の対象となったいずれの地区とも、早期に事業を実施する必要性が認められる。

以上